



卒業生との別れを惜しむかのような名残りの雨の中、4年ぶりに来賓をお招きし、第59回卒業証書授与式を挙行了しました。

涙、涙、感動の卒業式でした。証書授与の時点ですでに泣いている子が何人もいました。私も証書を手渡ししながら胸に込み上げてくるものがありました。



校長式辞では、思い切って「トニー」を登場させました。粛々と進める場にそぐわないというお叱りを受けても仕方ありませんが、どうしても登場させたかったのです。トニーが初めて大勢の前に登場したのが3年前の入学式であり、トニーは卒業生と一緒に成長してきたのですから。実際に舞台上に登場したトニーを見てさらに涙ぐむ卒業生もいました。



式辞で伝えたかったことが2つあります。本校の校訓である「**誠実**」の大切さと、**生徒の姿から感じた「本当の優しさ」**についてです。卒業生一人一人に語るように伝えました。思いは伝わったのではないかな、と思っています。



卒業生の歌声が本当に見事でした。伸びのある声で、精一杯涙をこらえて「**Gifts**」を歌いあげました。男子は少ない人数でしたが、会場中に響いていました。女子の歌声はやっぱりきれいでした。全校合唱の校歌も会場中を美しい心が一つになって包み込んでいるような、何とも言いいようのないすてきな歌声となりました。3番をアカペラにしたことで余韻がしばらく残りました。



答辞や送辞も見事でした。

学級のお別れ会も涙あふれるものでした。教室に入り切れず多くの保護者は廊下に設置されたようかん台の上からのぞかれています。思春期の多感な時期である3年間の子育てはご苦労も多か

ったことと想像できます。 **ご卒業おめでとうございます。**